

ベトナムプロジェクト2015完了報告

贈呈式

贈呈式日時 : 2015年11月18日

会場 : ベトナム、タイビン省ドンファン県人民公会堂

今回の訪問は初めての「子どもの姿を見ない」訪問となりました。

まず、贈呈式会場の人民公会堂はすり鉢状になっており、ステージが一番低い構造になっていて客席は階段状になっており、足の不自由な子ども達の行動に危険を伴うので、安全のため子ども達の出席を取りやめ、家族の代表が車椅子を受け取りことになりました。

いつもは子ども達に加えて母親の姿もいて賑やかなのですが、今回は力仕事に向いている男性が多く、いささか地味な色合いの式となりました。

式はタイビン省の人民会議副議長、ドンファン県人民委員会副委員長、日本大使館公使と小田理事のスピーチの後、父兄代表者たちが壇上に上がり車椅子を受け取って終了しました。



車椅子を受け取った人達の自宅訪問

式後、車椅子を受け取った人達の自宅を訪問しましたが、まだ子ども達が車椅子を受け取っていないので、すでに受け取った成人の人達の自宅を訪問しました。

最初は脳梗塞を患って体が不自由な60代の男性、次に子どもの時に発症して身体が不自由になっている50代の男性。

地元の地区委員会からの強い要望が赤十字支部にもたれされ、検証した結果、子どもではないが適合する車椅子があったので、彼らの環境を考慮して例外的に車椅子を配布したとの説明がありました。そして、そのことを日本のNGOにも理解をしてほしいので今回あえて成人である彼らを訪問することにしたとの話でした。

自宅には地区委員や世話をしてくれている近隣の人達が多数姿を見せ、私や大使館公使に何度もお礼の言葉をかけてくれました。

3人目は20歳の青年でしたが、本人は車椅子が大いに気に入ったようで、訪問者を前に照れながらも笑顔を見せていました。幼い妹を抱いて横にいた父親が「これから世話をするのが楽になります」と嬉しそうに話していました。



タイビン省のほか、ニンビン省とナムディン省の子どもたちにも今回の車椅子が配布されます。

贈呈式後、来賓として出席したタイビン省人民会議副議長から「次はいつ車椅子を送ってくれるのか」と真顔で聞かれましたが、すぐにでも何台でも欲しいとの言葉が聞かれました。

これはどこの省でも同様です。

赤十字によると当会が11年間に22か国に送った車椅子の総数と同様の数がハノイを中心とした約10省で現在必要とされています。中部、南部などベトナム全体と考えたら気が遠くなる数字の車椅子が必要な計算となります。

以上